

25日午後2時半ごろ、秋田市では多くの地点で路面の積雪が10センチ以上となったことから、全市一斉除雪が行われました。市内には至るところに雪山ができていて、除雪車400台以上が除雪にあたりました。午後5時点の積雪量は、北秋田市阿仁合で139センチ、秋田市で27センチとなりました。



総務省消防庁のまとめによると、2月10日までの大雪による死者は全国で46人に上っています。雪下ろしでの転落や落雪に巻き込まれるケースが多いとみられ、自治体などが注意を呼び掛けています。雪道での転倒防止策として、歩幅を小さくして歩く「ペンギン歩き」が注目を集めています。重心をやや前に置き、靴裏全体を路面につけるように歩くのがコツ。転倒に備えてポケットに手を入れないことも重要です、雪国では常識でしょうか。

③冬の味覚「ハタハタ」は今

秋田の冬を象徴する魚「ハタハタ」が、今シーズンかつてない不漁に見舞われている。漁獲量は1995年の禁漁明け以降で最少となる見通しで、海水温の上昇や群れの消失、性的な異常など、海で起きている複合的な異変が浮かび上がってきた。地域文化として根付いてきた「季節ハタハタ漁」が存続の危機に立たされている。

県によると、今シーズンのハタハタ漁獲量は沖合5.5トン、沿岸14キロの計約5.6トンにとどまり、1995年の禁漁明け以降で最も少ない見通しだ（1月6日時点）。八峰町の八森・岩館両漁港の季節ハタハタ漁も47.5キロと、昨年の5%ほどに激減した（1月7日時点）。八森漁港の漁の解禁は2025年11月25日だったが、初漁は12月23日と異例の遅さ。地元漁師は「予想はしていたが、ここまでは」と肩を落しているよう。八森漁港の漁師・山本太志さんは、15年以上海面水温を記録してきたが、

その経験から、水温が13.2度を下回るとハタハタが産卵のため沿岸に寄るとされるが、今季は12月下旬になっても12.4のままだった。漁師になっても20年になる山本さんは「20年で水温が4度ほど上がっている」と指摘し、温暖化の影響が産卵行動を直撃している可能性を示唆する。



ハタハタの漁獲量 (県のまとめ)



山本さんの経験によると、例年山形方面から北上する群れと北海道方面から南下する群れが八森沖で合流する。しかし、南からの群れは4年前から姿を消し、今季は北からの群れも確認されなかったという。「これまで北からの群れが残っていたから何とか漁になっていたが、今季はそれすらも来なかった」と山本さんは語る。さらに深刻なのが、漁獲されたハタハタの性比の異常だ。通常は雄7割・雌3割だが、今季は9割が大型の雌で、雄がほとんどいないという。ハタハタは雌が藻場に産卵し、そこに雄が来て受精することで稚魚が生まれる。雄がいなければ繁殖が成立せず、来季以降の資源回復にも暗い影を落とす。美味しいうブリコが食べられるよう、回復を期待したい。

海老名市の話題

二十歳の門出祝い (3市で3305人)

2022年4月から成人年齢が18歳に引き下げられたが、海老名市・座間・綾瀬市とも今年度中に20歳に達する05年4月2日から06年4月1日に生まれた人を対象に成人式が開催された。3市で3305人が門出を迎える。

海老名市で実施されるのは「令和8年海老名市二十歳の祝典」。式典の対象者は1317人(男性690人・女性627人)で前年比9人減。会場は海老名市文化会館で、出身中学校別に午前10時30分からの第一部(海老名・柏ヶ谷・今泉)と午後1時30分からの第二部(有馬・海西・大谷)に分けて行われた。市長や教育長による祝辞のほか、抽選会や当時の教諭からのメッセージ、寄せ書きコーナーの設置などがある。式典の対象者を10年前の2016年と比較すると、海老名駅周辺などの開発が進む海老名市は131人増加している。一方、綾瀬市



海老名市では紙テープ投げが行われた

は57人減とわずかに減少、座間市の減少幅は大きく184人減となっている。